手話通訳歴50年の立場から見えること

激しい差別は減ったが――よりよい社会をめざすために

高校時代から手話の世界に飛び込み、手話を必要とする人々の支援に取り組む傍らで、半世紀以上にわたって聴覚障がい者を取り巻く環境を見てきた池上睦さんにお話を聞きました。

聴覚障がい者を取り巻く環境はどう変わりましたか？

昔と比べると、ろうあ者に対するあからさまな差別はなくなってきたと思います。しかしながら、聞こえない人と聞こえる人の間の距離はまだまだあると感じています。

高校時代の私が新聞記事で見つけた手話講座の門を叩いたのは昭和39年のときでしたが、その頃でも聞こえない人と聞こえる人との間にははっきりとした壁があって、手話を学ぼうとする人以外は聴覚障がい者のコミュニティに近づこうとはしませんでした。

日本では、明治時代に聴覚障がいがある児童のための「ろう教育」の中で、手話が広まったと言われています。

しかし、昭和10年代に、ろう教育の中心は手話から音声言語を使う口話に変わりました。これは、社会が手話を通じた言語習得に限界を感じ、口話法によるろう教育の成功例が全国的に紹介され、国も口話教育を推奨したからです。当時は手話は真の言語とは見なされず、音声言語に価値を置いて、**手話は発語や読話の妨げになると考えられ、厳しく禁止されていました。**

その結果、音声を聞いて自然に言葉を覚えることのできない子どもたちにとって、ろう学校（現在の聴覚特別支援学校）の授業は大変分かりづらいものになりました。一方、授業を離れて寄宿舎で行われていた、先輩たちとの手話による会話が子どもたちの大切な言語となっていました。

昭和40年代は、日本経済が高度成長を迎え、社会の障がい者への意識も変わり、手話を学んでろうあ者とともに社会に働きかける人々も現れてきました。

より良い社会のために、私たちが意識すべきことは？

現在では、聴覚特別支援学校の授業でも手話を使用するようになりましたし、テレビでも手話を見かけることが多くなりました。しかしながら、**聞こえないことへの理解は手話の理解ほどには進んでいません。**大切なのは、**聞こえないことへの理解を深めること**です。平成19年には国連の障害者権利条約に手話が言語であると認められ、わが国でも障害者基本法に手話が言語であると明記されました。そして、市は全国で17番目となる平成27年に「三木市共に生きる手話言語条例」を制定しました。ただし、それらが施行されただけでは社会環境は変わりません。それらの実現に向けて私たち一人一人が何を考え、何をしていくかが大切だと思います。

三木市登録手話通訳者協会
会長　池上 睦さん

電話リレーサービス

聞こえない人と聞こえる人との会話を通訳オペレータが手話や文字と音声を通訳して、電話で双方向につなぐサービスです。利用には専用のスマートフォンアプリのダウンロードなどが必要です。詳しくは問い合わせてください。

問 (市)障害福祉課 障害者支援係

NET119緊急通報システム

聴覚や発話の障害により、音声通話が困難な方がスマートフォンや携帯電話を利用して、どこからでも119番通報ができるサービスです。

登録を希望する方は以下まで問い合わせてください。

問 (市)消防署 警防課
☎82－0119　FAX 82－9167

意思疎通支援技術開発者の立場から

今後、5～10年でコミュニケーションを支える技術は急激に進歩

市は、地域課題と民間企業が有する技術とをマッチングさせ、課題解決をめざす「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」に参加しています。その中で、兵庫県と㈱時空テクノロジーズとともに、聴覚障がい者だけでなく、高齢者を含めた聞こえにくい方が安心してコミュニケーションを図れる支援ツールの開発を進めてきました。コミュニケーション支援の未来について、時空テクノロジーズ代表の橋本さんにお話を聞きました。

▲音声文字起こしツールに入力された音声はAIに転送され、文字情報となって表示される。変換精度は日々向上している

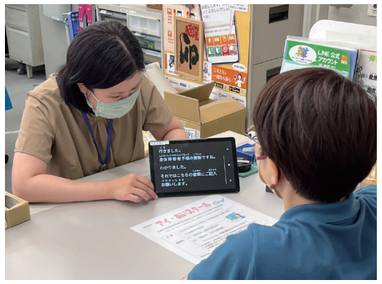
聞こえにくい方のコミュニケーション支援に関わったきっかけは？

会議音声文字起こしツールを開発する中で、会議の議事録を残すこと以外にできることをがないかを考えていた時に、三木市が「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」に聴覚障がい者のコミュニケーション支援をテーマに取り組みたいと手を挙げていることを知り、市役所の障害福祉課の窓口を実際に訪れたことがはじまりです。

今後のテクノロジーの進歩について

テクノロジーの進歩によって、今後5年から10年でコミュニケーション支援のためのサービスはさらに良いものになっていくと思います。今、聞こえにくい、コミュニケーションに参加しにくいと感じている方も**今後の技術革新に期待してほしい**と思います。

▼タブレット版の音声文字起こしツールを使って窓口対応する職員



読者へのメッセージ

現在も市を通して、利用した感想を共有してもらって、さらなる改良を続けています。

皆さんの声が技術革新を進めるきっかけになりますので、聞こえにくいことだけでなく、コミュニケーションが関わるあらゆる分野での希望を寄せてほしいです（要望のある方は、障害福祉課まで問い合わせてください）。

㈱時空テクノロジーズ
代表　橋本 善久さん

一人の一人の思いが社会を変える

これまで、来場者のほとんどが聞こえない人だった、手話による絵本の読み語りイベントに、聞こえる人の参加者が増えています。

その要因の一つとして考えられるのは、近年、映画やドラマなどで、障がいのある人を中心とした多くの物語が世に送り出され、人々の心を動かしていることです。

そして、そうした動向が社会に生まれたのは、聞こえない人・聞こえる人、一人一人の思いが、つながり、広がり、深まっているからだと思います。

誰もが誇りを持って暮らせるまちをめざして、まずは「知る」ことから始めましょう。

一緒に、一歩を踏み出してみませんか？